

## 第3回 福岡市及び近郊における周産期医療連絡会議 議事要旨

---

- 日 時 平成23年1月18日(火) 18時30分から
  - 場 所 福岡国際ホール 大ホールA
  - 出席委員 福岡県産婦人科医会福岡ブロック会 長野委員,  
九州大学病院 福嶋委員・落合委員, 福岡大学病院 小濱委員・太田委員,  
九州医療センター 久保委員・佐藤委員, 福岡徳洲会病院 窪田委員,  
浜の町病院 井上委員(片岡委員代理)・黒木委員,  
福岡山王病院 渡邊委員・森委員, 福岡赤十字病院 西田委員・曳野委員,  
こども病院・感染症センター 月森委員, 福岡市保健福祉局 恒吉委員  
[オブザーバー] 福岡赤十字病院 梅津(産婦人科)部長, こども病院・感染症センター 福重院長,  
福岡市消防局, 福岡市立病院機構本部事務局
- 

- 本日より参加している福岡山王病院の委員の紹介が行われた。

### 議題1 福岡県への報告資料について

- 福岡県への報告資料(案)について, 事務局より説明を行った。
- 福岡県で1月12日に開催された, 周産期医療体制整備計画策定のための第一回作業部会の状況について, 部会の委員である福嶋委員, 佐藤委員より説明が行われた。
- 本会議の検討内容については, 本日の会議の後に, 市から県に報告を行うことが確認された。

### 議題2 福岡市及び近郊における周産期医療の課題に対する対策(案)について

- 月森委員より, 周産期医療の課題に対する具体的な対策(案)について提案がなされた。

### <議題1・2に関する主な意見>

- 資料3の内容は, 全て全国に例がある。各地域の実情に応じて仕組みができており, 福岡も実情に合わせて, 福岡方式を作らなければならない。たとえば大学病院に受け入れ依頼の電話があっても, 手術中で受け入れられないというときに, 簡単に対応できるルールだけでも作ればよい。
- コールセンターを設置する場合, 誰が電話を受けるのが大切になる。大阪府では, 専門の産科医が受けているが, ある程度症例の分別ができており, やはりハイリスクの選別のためには, それなりの専門知識が必要だと言われている。コールセンターの設置はあくまで一つの案であり, 場合によっては, ファーストコールを受ける病院を何箇所か設定し, 症例ごとに受ける病院を整理してもいい。開業医側が使いやすいようにするのがいい。
- 県の周産期医療ホットラインのPHSは, 一日中身につけて, その都度受け入れの判断をしなければならないので, かなりストレスが強い。
- 各施設の受入可能状況を一括して管理できる仕組みがある方が, 効率的に運用できると思う。しかし, その管理は医師がする必要があるので, 人員確保の問題もあり, 体制を作るのは難しい。

- 現状では、今の周産期搬送のやり方が、理想というわけではないが一番やりやすい。
- 一次医療施設の中に潜在的なマンパワーがかなりあると思う。一次医療施設としての機能分担、意識改革が必要である。
- 産婦人科医会としても、一次医療施設としての機能分担が必要だと考えている。
- 一次・二次医療施設がそれぞれやるべきことをやって、三次医療施設にお願いするという形が必要である。オープンシステムの導入などにより、負担を振り分けていく形ができればいい。
- オープン・セミオープンシステムなどで、二次医療施設が一次医療施設のバックアップをするのは十分可能である。婦人科救急搬送体制との分別は、今の産婦人科の医師数ではまず不可能だと思う。
- 資料3の内容は、医療者側の案である。たとえば逆搬送では、患者に病院を移ってもらわなければならない、実現のためには患者家族の理解が必要。
- 治療が進んだら次の病院に移る可能性があるということを、NICU に入院した時点で家族にきちんと説明していけば、逆搬送は可能だと思う。
- 長期入院患者が在宅に戻る前に入院するのであれば、新生児室がなくても、小児科病床で逆搬送の受け入れが可能。さらに、逆搬送を受けた施設が、レスパイト病床がある施設と連携できればいい。
- 二次・三次相互の搬送があるからうまくいくという認識を、利用者側にも浸透させていくことが今後の課題。
- 患者が周産期医療体制の現状を認識し、意識を変える必要がある。
- NICU はベッドを増やすと同時にマンパワーを確保することが大事。先々は新生児専門医の配置や、きちんとした新生児部門の研修が必要。
- 後方支援施設や在宅への移行がないと、Chronic NICU を整備してもすぐに埋まってしまうので、後方支援も含めて整備する必要がある。
- レスパイト病床は、在宅の患者には必要なものであり、診療点数もついたので、確保していただきたい。

#### **その他（１）周産期医療機能に関する調査結果の修正について（報告）**

#### **その他（２）他の協議会等について（報告）**

- その他の報告事項について、事務局及び消防局より説明を行った。

#### **※今後の進め方について**

- 今後の進め方について事務局より説明を行った。

#### **<今後の進め方に関する主な意見>**

- この会は、今後も存続させ、検討事項があれば検討を行っていきたい。一次医療施設の意識改革、機能の分別については、産婦人科医会に持ち帰って検討したい。
- 今回までで問題点が整理されたので、福岡地域の周産期医療をこれからどういう方向に持っていくかについて、今後議論できるといい。